

堆肥トラブル上手に回避!

化学肥料高騰で注目 コスト縮減に有効

化学肥料の高騰で、家畜ふん堆肥が改めて注目されています。近隣に畜産農家がいれば入手しやすく、安価ですが、独特の臭いがあります。新たに取り入れる農家は、周辺住民とトラブルにならないよう配慮が求められます。機械や設備が必要な場合、レンタルや補助金の活用も有効です。

堆肥は発酵が進むと臭いが抑えられますが、完熟の明確な線引きがなく、ある程度の臭気

が残っていることが多いです。乾燥・圧縮して扱いやすいペレット堆肥は臭いが少ないです

が、ばら堆肥には細かな粒子が含まれているので飛散しやすく、臭いが遠くまで届きやすいという問題があります。

という問題があります。

今まで堆肥を使っていなかった圃場(ほじょう)では、周辺住民への配慮が必要になる場合があります。農水省は「混住化が進み、臭いが出る作業でトラブルが増えている」(技術普及課)と説明しています。

肉用牛や酪農、養豚など畜産が盛んで、人口も多い前橋市は、耕種農家の堆肥散布に注意を促しています。①風の強い日を避ける②散布したら、その日のうちに耕うんする③周辺に民家がある場所の散布は食事の時間帯を避ける——ことなどを呼びかけています。

課題 堆肥導入の注意点

課題	対応策
<ul style="list-style-type: none"> 独特の臭いがある 散布中や散布後に飛散しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 散布後にできる限り早く土中にすき込む 散布前に周辺住宅に声がけ
<ul style="list-style-type: none"> 堆肥専用の散布機が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 散布まで請け負う畜産農家から購入 JAなどから散布機をレンタル 作業受託組織に散布を依頼
<ul style="list-style-type: none"> 堆肥の運搬費用が負担に 	<ul style="list-style-type: none"> まとまった量を倉庫に保管して使う 堆肥用倉庫は国の事業による支援が受けられる場合も

(日本農業新聞 2022年7月15日)

農業技術ピックアップ

ミカンのマルチ栽培の労力軽減へ

水ホースを使用したマルチ押さえ用具

全国のみかん産地では、安定した高品質果実の生産のためにマルチ栽培技術が普及しています。園地に敷設されたマルチシートが台風などで飛ばされないように土のうを用いることが多

く、その製作や運搬に多大な労力がかかります。このことからカンキツ園地で活用できる省力的なマルチ押さえ用具「ホース型水どろう」を開発しました。

「ホース型水どろう」は、軟質塩ビ樹脂製の直径50mmの送排水用ホースに注水して使用します。末端にはネジ式のフタ付き塩ビ管をつけて、ホースバンド2本で締め付けます。製作費用は10a当たり約55,000円の試算となります。



転がり防止に土のうを5mに1個設置



水の注入状況



栓付き塩ビ管などの資材

「ホース型水どろう」は慣行の土のうと比較し、製作作業は屋内でできること、設置時も軽量であることから、一連の作業の軽労化につながるものと期待しています。

お問い合わせ先

紀南果樹研究室
☎05979-2-0008
中央農業改良普及センター
☎0598-42-6707

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

農業を営むすべての方に

農業経営資金

当初3年 最大年 1%

農業者の皆さまを応援するため
JAバンク利子補給制度で金利負担を軽減します。

【取扱期間】2022年1月1日～2023年3月31日

詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。

JAバンク 三重県下JA/JA三重信連

トラクター・ドローンなどの農業機械購入 生産管理システムなどの先進技術導入

農地購入 農業運転資金

栽培用ハウス・畜舎建設 その他農業経営に必要な資金

農業経営に必要な資金として
幅広～く
ご利用いただけます